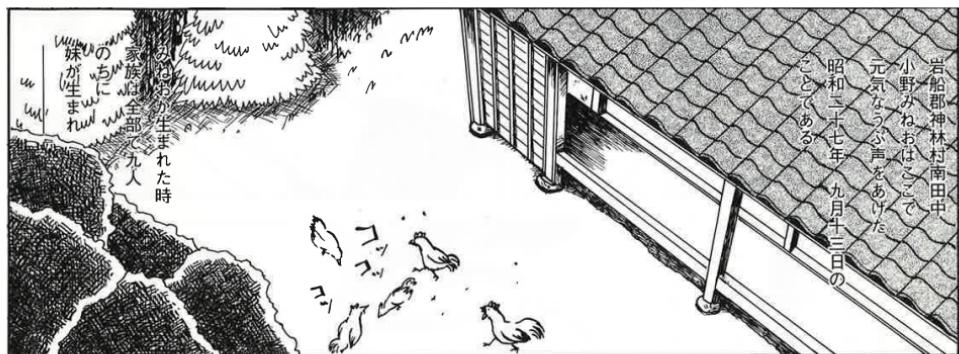


# 風よ再選 ふたたび





一浪して後  
昭和四十七年四月

法政大学に

入学してからも

バドミントン

同好会を創設し

そして  
みねおは  
法大四年  
就職先も  
決まらぬまま

バドミントンに  
明け暮れする  
学生生活を送った

卒業を  
むかえようと  
していた

昭和五十一年三月  
みねおにとつては  
晴天のへきれき  
ともいふべき  
一本の電話があつた

まあ…  
ええ  
はい  
以来十四年間  
政治家の秘書として  
活動を続ける

はい  
あ  
この時の電話が  
みねおは  
渡辺紘三事務所へ  
渡辺紘三事務所へ

あつ  
はい  
わざわざお電話  
いただきまして  
恐縮です

もしもし  
渡辺紘三ですが  
どうだ  
元気でやつとるかね  
小野くん！

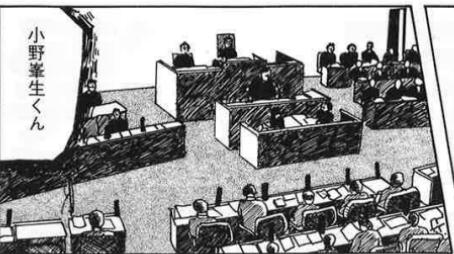
そして 平成三年  
地域振興の夢に燃えて  
みずから  
県議会議員候補の  
名乗りをあげる

このとき小野みねお  
若干三十八才の  
若さであった



平成三年五月十六日

新潟県庁  
県議会本会議場



あーあ

仕事仕事つて  
ちつとも  
オレの話

聞いてくんな

最近は遊んでも  
くれないし

これ!

聞いてくんな



みねおは奔走した——

県議会はいうまでもなく  
各種委員会・

各地への視察  
そして

合い間をぬつての  
農業——

文字通り  
東奔西走の

日々が続く

しかし  
スポーツで  
培われた体力は  
常にパワーを秘め

一八三センチの長身を  
支えていた

